

平成 27 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	虹色の音
活動テーマ	命の大切さを伝える



「命の大切さ」つなぐ

2005年4月あったJR福知山線脱線事故の遺族が宝塚市の音楽講師、原口佳代さん(55)が作るグループ「虹色の音」が27日、宝塚市梅野町の宝塚ホテルで、講演と音楽ライブ「いのちの理由」を開いた。西宮市の関西学院大でグリーンケアを学ぶ学生たちとの共催。「さまざまなきらみやつらを抱える遺族たちが気持ちを分かちあい、立ち直りや命の大切さを考えるきっかけになれば」と企画した。

原口さんは、脱線事故 22 年たった今、涙や苦しみにあふれる人たちの声援を求め、この春から本格的にグループでの活動をしている。原口さんは活字が大好きで、亡くなった後、支えなくなった母も死別した。この日は参加した約 80 人の遺族を前に、そうした自らの体験を話し、そして「亡くなった人たちは必ずそれぞれ心に語り物を与えてくれます。その中に勇気を見つけたら、感謝をしながら、生きていく」と語り、参加した遺族らに、自らの体験を語り、いのちの大切さを伝えた原口佳代さん

参加した遺族らに、自らの体験を語り、いのちの大切さを伝えた原口佳代さん

福知山線脱線事故遺族 宝塚の原口さん

講演と音楽ライブ 関学大生と共催

関西学院大人間福祉学部でグリーンケアを学ぶ学生たちは、自分たちで制作した「はっぴの物語」の上で、朗読をした。いづれも宝塚ホテルで

関西学院大人間福祉学部の坂口幸弘教授(音楽学)のゼミで、グリーンケアを学ぶ学生たちは、遺族からの聞き取りなどを基に自分たちで制作した短編映像「はっぴの物語」を上映し、亡くなった人と故人の思いを胸に遺族らを導き出した。ストーリーで、朗読に付けた時を朗読した。朗読を担当した4年の由木南さん(左)は「遺族のみならず、物別れされた遺族の気持ちを重んじていたことが心に響きました」と話した。

宝塚市内から参加した女性(右)は「長い闘病生活を送った主人を亡くして数カ月ですが、やはり寂しさが募ります。癒やされる機会となりました」と話した。大阪府吹田市内から参加した女性(左)は「はっぴの物語」には、自分の気持ちが映し出されており、感動しました」と話した。



2016. 5. 29 (月) 5.29 掲載 神戸新聞

「後悔しない人生を」
遺族の原口さん 母校で思い語る

神戸市兵庫区にある関西学院大で、音楽講師として活躍する原口佳代さん(55)が、宝塚市梅野町の宝塚ホテルで、講演と音楽ライブ「いのちの理由」を開いた。西宮市の関西学院大でグリーンケアを学ぶ学生たちとの共催。「さまざまなきらみやつらを抱える遺族たちが気持ちを分かちあい、立ち直りや命の大切さを考えるきっかけになれば」と企画した。

原口さんは、脱線事故 22 年たった今、涙や苦しみにあふれる人たちの声援を求め、この春から本格的にグループでの活動をしている。原口さんは活字が大好きで、亡くなった後、支えなくなった母も死別した。この日は参加した約 80 人の遺族を前に、そうした自らの体験を話し、そして「亡くなった人たちは必ずそれぞれ心に語り物を与えてくれます。その中に勇気を見つけたら、感謝をしながら、生きていく」と語り、参加した遺族らに、自らの体験を語り、いのちの大切さを伝えた原口佳代さん

参加した遺族らに、自らの体験を語り、いのちの大切さを伝えた原口佳代さん

福知山線脱線事故遺族 宝塚の原口さん

講演と音楽ライブ 関学大生と共催

関西学院大人間福祉学部でグリーンケアを学ぶ学生たちは、自分たちで制作した「はっぴの物語」の上で、朗読をした。いづれも宝塚ホテルで

関西学院大人間福祉学部の坂口幸弘教授(音楽学)のゼミで、グリーンケアを学ぶ学生たちは、遺族からの聞き取りなどを基に自分たちで制作した短編映像「はっぴの物語」を上映し、亡くなった人と故人の思いを胸に遺族らを導き出した。ストーリーで、朗読に付けた時を朗読した。朗読を担当した4年の由木南さん(左)は「遺族のみならず、物別れされた遺族の気持ちを重んじていたことが心に響きました」と話した。

宝塚市内から参加した女性(右)は「長い闘病生活を送った主人を亡くして数カ月ですが、やはり寂しさが募ります。癒やされる機会となりました」と話した。大阪府吹田市内から参加した女性(左)は「はっぴの物語」には、自分の気持ちが映し出されており、感動しました」と話した。



いのちの理由
遺族と音楽ライブ

日時 6月27日(日) 11:00～13:00 (10:30開場)
場所 宝塚ホテル 東館2F ロゼの間

宝塚市 宝塚 956

虹色の音のメンバーには、JR 福知山線脱線事故の遺族がおります。突然大切な人を失う喪失感というものは、その時におとずれる感情ではなく、時間が経つにつれて大きくふくれあがり、やがて自責に変わり、うつ病などの発生に至り、生きている気力がなくなります。

そんな経験を事故から 10 年、人と人との支えから生きる希望を見つけ出し、ようやく一步を踏み出すことが出来ました。この 10 年の苦しみ、悲しみ、心の変化をふまえ、同じような突然死(事故、災害)にあわれたご遺族様の気持ちを一番理解することができる私達と、音大出身のメンバーと共に音楽を用いてそういった方々の心を癒し、涙を流し、心の相乗効果を持って、元気になってもらう事が目的で音楽ライブを開きました。人には人それぞれの心を和ませる音楽というものが必ずあります。そして音楽はおかあさんが唄ってくれた子守唄からはじまり、生きていくうえで生活の中にかかせないものです。懐かしい音楽を聴き、あるいはふと耳にした音楽に感情移入し、心の中にある大切な人を思い出し、優しい気持ち、穏やかな気分になれるのも音楽の大きな力です。講演中に一緒に歌をうたったりしながら楽しいひとときを過ごし、「元気をもらえました」「また参加します」のたくさんの言葉に救われました。

母校(大阪信愛女学院 高 3)の後輩たちには、「これから卒業をむかえ、社会に出ていろんな事がおこるけれど、命だけは大切に生きてほしい」といったことを伝えました。2 時間の講演、ライブに生徒達がずっと涙を流し聴いてくれた事に感動しました。講演の最後に先生方にもサプライズで卒業したら、二度と歌えない「学院歌」を起立して全員で歌いました。自分達がこの校舎を巣立つその時をうかべ、すばらしい学院歌に校長をはじめ、聴講された先生方も涙だった事に私の今の活動に勇気とありがたさを感じ、これからもたくさんの方々のお役に立ちたいと思いました。